

## 林學博士金平亮三君の「南洋委任統治領フロラの研究」に

## 對する授賞審査要旨

我が南洋委任統治領即ちカロリン、マーシャルル及びマリアナ（グアム島を除く）三群島の植物は一八九九年ドイツ占領以前には唯僅かの種類が知られてゐたに過ぎなかつた。其後ベルリン、ダーレム植物博物館から派遣されたフォルケンスやレーダーマンの採集研究に因て此等群島のフロラも少しは明かになつたが、その智識はまだ甚だ不完全であつた。茲に九州帝國大學の林學教授金平亮三君は大正三年初めてその地に渡航し、又その後昭和四、五、六、七の四年には特に植物採集の爲そこへ出張し、此群島の重なる島々に綿密な植物採集を行つたがその結果採集標本は合計一萬點、種類の數は二千三百以上に至つた。而して其の種類のの中には君に因つて初めて發見された新植物も多數含まれてゐる。又此新植物中特筆すべきはタコノキ屬(*Pandanus*)に就てである、即ち金平以前には此群島に於ける此屬の植物は唯八種ありとされてゐたが、君の探檢によりそれが一躍三十八種、八變種の多きに至つた。而してこれは金平以前全世界を通じての此屬の總種數約三百八十に對し凡そ其十分一に相當する新種を加へたことになる。然かもこれが君獨力の發見研究に因ることを考へると、これは植物採集の歴史上他に類例の少い事實である。君はタコノキ屬は勿論その外の新種に關し多數の論文を發表

し、尙又君が採集した植物を基礎として之に先輩の採集品をも加へて南洋群島植物誌なる書を著した。君の此研究に因り我南洋委任統治領のフロラに關する吾人の智識は著い進歩を遂げ、殊にその樹木のフロラは殆んど完成したものと云ふべく、君の努力と功績には實に偉大なものがある。